第１・２年算数科学習指導案

日時　　平成１４年６月２１日（金）
第５校時
場所　　１，２年生教室

１　教材名　１年　たしざん（１）

２　目標

①たし算が用いられる場面に興味を持ち，たし算の式に表される良さを知り，進んでたし算を用いようとする。
②合併や増加の場面を同じたし算と考えることができる。
③合併や増加の場面をたし算の式に立式し，（１位数）＋（１位数）＝（10 以下の数）の計算をすることができる。
④たし算が用いられる場面，たし算の記号や式の読み方・書き方・計算の仕方を理解する。

３　指導の立場

児童は前時までに増加の場面を数図ブロックを使った算数的活動によって理解している。本時は，増加の場面でもブロック操作が同じであることから合併と同じたし算になることに気づかせ立式し解いていく。合併でたし算の表し方を学習しているので増加でも同じ式になることは理解しやすいと考えられるが，本時は，はじめの数に増える数を付け加えるたし算であることをはっきりさせ次時へつなげたい。そのため，口で唱えることや手の操作で，式とブロックを結びつけてたし算の意味をつかませたい。また，式に表すことは経験しているが習って日が浅いので「＋」「＝」などの記号のかきかたなども丁寧に扱いきちんと定着させたい。

１　教材名　２年　たし算かな　ひき算かな

２　目標

①線分図（テープ図）のよさに気づき問題解決の際に進んで用いようとする。
②逆思考を必要とする問題について,数量の関係を線分図（テープ図）をもとに考えることができる。
③数量の関係を線分図(テープ図)に表すことができる。
④加法や減法の用いられる場について理解する。

３　指導の立場

本時は減法の逆思考の問題(□－ａ＝ｂ)の型の問題を取り扱う。この時期の児童は，文章から演算決定の理由を考えずに，機械的に素材文の中の数値を抜き出して計算することも多い。そこで，本時はブロックを操作することで，はじめの数はブロックを戻せば出せることを理解させ演算を決定させたい。

また，ブロックを使うことで，まっすぐ隙間なく並べていくと分かりやすくすっきりしていることに気づかせ次時につなげたい。

５　テーマとかかわって（１年）

少人数・複式学級の特性を生かした指導法の研究
～主体的に学習に取り組める授業の工夫～

個をつかむこと，そして個に応じた指導を充実させることは児童にとって充実した授業になるための必要条件である。1 年生はたった一人の児童であるがその特性をつかみ予想される行動に対する指導を考えておくことで充実した授業に近づくと考える。また，間接指導時にひとりで学習を進めることができるよう，問題をできるだけ丁寧に提示し十分理解させてからわたるようにする。さらに，間接指導時にも学習が進んでいるか気を配り，自分の考えを持って次の直接指導に臨めるよう小わたりをしながら援助していきたい。

６　１年生「たしざん（１）」主な単元の指導内容　（８時間）

小単元	内容	
あわせていくつ	・数図ブロックを操作し，合併の場面を理解する。	1
	・たし算の式を知り，たし算の式に書いて答えを求める。	1
ふえるといくつ	・数図ブロックを操作し，増加の場面を理解する。	1
	・増加の場面でもたし算の式にかいて答えを求める。（本時）	1
こうえん	・たし算の適用する場を広げ，たし算についての理解を深める。	1
たしざんのかあど	・たし算のカードを使ってたし算について習熟する。	2
おさらい	・おさらい	1

５　テーマとかかわって〈２年〉

少人数・複式学級の特性を生かした指導法の研究 ～主体的に学習に取り組める授業の工夫～

少人数だからこそ個の実態がつかみやすく個々のよさを授業で生かすことができると考える。本時は３人の児童が，ブロックをもとに自分の考えを表現できるよう絵を使って問題を提示していきたい。そして学習リーダーを中心にして意見を交流させることで考えを深め直接指導で発言させていきたい。また，挙手のないときには意図的指名ができるよう児童の考えを小わたりでつかみ，援助しながら児童一人一人を活躍させていきたい。

６　２年生「たし算かな　ひき算かな」主な単元の指導内容（４時間）

小単元	内容	
はじめはいくつ	□－ａ＝ｂの□を逆思考で求める問題(求残の逆)　(本時)	1
	□＋ａ＝ｂの□を逆思考で求める問題（増加の逆）	1
へったのはいくつ	ａ－□＝ｂの□を逆思考で求める問題（求残の逆）	1
ふえたのはいくつ	ａ＋□＝ｂの□を逆思考で求める問題（増加の逆）	1